

航空神社とは、1937年9月、陸軍所沢飛行学校内に造営された神社である。創建の翌年、埼玉県入間郡豊岡町の陸軍航空士官学校(現・航空自衛隊入間基地)へ移設され、さらに敗戦後の1945年9月、埼玉県所沢市北野の北野天神社境内へ再び移設された。しかし、1965年11月、廃社となり、その社殿は北野天神社境内「小手指神社」として転用されて、今日に至っている。なお、廃社後、本神社に奉安されていた四千九百余柱の霊名簿と同霊名碑は航空自衛隊幹部候補生学校(奈良県)に移されたが、1986年5月、航空自衛隊入間基地内に修武台記念館が設置されたのを機に1988年2月、同基地に移され、現在、同霊名簿・霊名碑は同基地内の修武台記念館・航空神社資料室の奉安庫に収蔵されている。

本神社の沿革については、修武台記念館・航空神社資料室に説明が掲示されているが、その内容は簡略で詳細は明らかではない。本研究の目的は、その沿革を可能な限り解明することにある。今回、修武台記念館のご協力により同館所蔵の資料「祭神霊璽の控 附航空神社の由来」(菅原道大・述)を閲覧する機会を得、それを手がかりに文献調査と関係者への聞き取り調査を進めた結果、以下の三点を明らかにすることができた。

1) 本神社創建の経緯について: 創建の主唱者は、徳川好敏(1884～1963)であり、実質的な創建者は木下敏である。徳川は、1910年、本邦初の公式飛行に成功した人物で、陸軍航空の祖として有名である。本神社はその徳川が所沢陸軍飛行学校第8代校長在任時に準備を進め、同校10代目校長の木下が創建した神社である。木下は、所沢陸軍飛行学校閉校後、1938年創設の陸軍航空士官学校(以下、航士校と略す)初代校長に就任し、それと同時に本神社も航士校へと継承された。本神社は、1913年の本邦初航空機事故死亡者(木村・徳田両中尉)から1937年の創建時にいたるまでの陸軍航空殉職者に対する慰霊を本旨とする。日本陸軍では、航空黎明期から満州事変以後の航空兵力増強期にかけて多数の航空殉職者が生じていたが、当時、これらの殉職者は靖国神社合祀の対象とはなり得なかった。靖国合祀から漏れたこれら航空殉職者を祀ることこそ本神社創建の理由である。また、当時、軍内部において敬神崇祖が奨励され、日中戦争後、復活した幼年学校では校内に次々と神社が創建されていた。このような時代の動きも本神社創建に大きく与っていたと思われる。

2) 敗戦後から廃社までの経緯について: 敗戦後、本神社を北野天神社境内に移設したのは創建主唱者の徳川である。徳川は、奇遇にも敗戦直前、航士校の校長であった。1945年9月、進駐軍による破壊を恐れて本神社を避難させたのである。その後、(敗戦直後の一時期を除き)廃社に至るまで、民間の宗教施設となった本神社を支えたのは、航空同人会ならび同会と表裏一体の関係にある航空神社奉賛会であった。航空同人会とは、1953年、東久邇稔彦を名誉会長に頂いて結成された陸軍航空関係者の親睦団体である(ちなみに、徳川も後に同会第3代会長に就任)。同会は、1950年の警察予備隊結成とその翌年の旧軍人の追放解除を機に、旧軍将官クラスを中心に組織された経緯をもつ。そのため、同会は、1954年の自衛隊発足後、同隊に参加した旧軍人を通じて自衛隊と繋がりがあった。同会の支援を受けた1957年の本神社大祭には第2代空幕長が参列、1960年の大祭(航空50周年、遷座15周年)と1962年の大祭(創祠25周年)にも自衛隊音楽隊が参加している。また、それぞれの大祭で自衛隊殉職者の合祀も併せて実施された(1962年、市ヶ谷駐屯地に自衛隊殉職者慰霊碑が完成すると、それらは市ヶ谷に分祀された)。1965年に本神社は、突然、廃社となった。しかし、「財政上の制約」という公式の理由には疑問点があり、検討する余地があろう。廃社後、本神社奉賛会(当時の会長は菅原道大。菅原は同時に航空同人会代4代会長でもあった)により本神社の祭神たる霊名簿・霊名碑が防衛庁に寄付され、航空自衛隊幹部候補生学校に移管された。その背景には、本神社への自衛隊殉職者合祀にみられたように、航空同人会ならびに本神社奉賛会と当時の航空自衛隊との浅からぬ関係が想定される。

3) 入間基地奉遷の経緯について: これには1973年の入間基地全面返還と、それに続く基地三分割問題、基地

内の旧航士校本部保存運動が機となっている。この運動の中心となったのもやはり航空同人会であった。又、同時期、入間基地当局自身も主体的に基地内の旧軍遺跡保存に乗り出す。1984年、入間基地当局が航士校の象徴である「修武台碑」を旧学校本部前に移設再建すると、翌年、航空同人会が同じく航士校の象徴的形象である「空の神兵像」再建をめざして活動をはじめ。1986年5月、入間基地当局が修武台記念館を創設し、同年9月、同館前広場に航空同人会により「航空兵の像(旧名:空の神兵)」が建立された。そして、同像建立1周年に当たる1987年末、当時の入間基地司令により航空同人会に霊名簿・霊名碑奉遷の意見照会が出され、同会の賛意と協力のもと、翌1988年、航空自衛隊幹部候補生学校から入間基地に移されたのである。

戦前の日本においては、本神社のような旧軍管轄下の神社は、多数存在していた。今日でも各地の旧軍施設跡もしくはその周辺において、その遺跡・遺物は現存しているが、その多くは忘却されたままである。また、戦争遺跡としての保存対象はもとより調査・研究対象にすら取り上げられていない。しかし、本研究でその一端が明らかになったように、この〈忘れられた神社〉も時代の諸相を照らし出す重要な証のひとつである。なぜ、これらの神社が今日に至るまで忘却されたままであり、かつ、戦争遺跡の対象としてすら取り上げられてこなかったのかという問題の検討をふくめ、本研究がこの〈忘れられた神社〉への再考を促す嚆矢となれば幸いである。